



Season1 7カーフマンジャパン南関東ステージ東扇島大会

冬でも楽しめるデュアスロン エイジ審判長 青山 英司

日本国内においてトライアスロン大会は春から秋にかけて開催され、冬季はありませんが、ラン・バイク・ランで行われるデュアスロンは冬でも楽しむことができます。特にカーフマンジャパンは国内唯一のデュアスロンシリーズレースで全国各地において開催され、エリートからエイジ、ジュニア・キッズまで幅広く参加できる大会になっています。

今回のカーフマンジャパン第4戦南関東ステージは2月9日(日)に川崎港東扇島で開催されました。今回はエイジ部門審判長として参加しましたので大会を通して気づいた点を述べさせていただきます。



◇防寒対策はしっかりと

今大会は朝9時時点の気温が5℃と低く、風も強いので低体温症にならないような対策が必要です。今回はウインドブレーカー等の着用を推奨し、フィニッシュ以外ではレースナンバーが隠れてしまっても構わないといった対策をとったことでエリートを除く参加444名中、DNF(リタイア)が6名と比較的良好な結果になったと思います。

◇コースと周回数の確認を確実にを行う

毎回大会会場で選手からコースや周回数についての質問があります。大会要項にコースや周回数は書かれているので事前にしっかりと確認しておくことで余裕をもって競技に臨むことができます。また、エイジのランコースは少し複雑ですので可能であれば早めに会場に来て確認しておくといいでしょう。今回はバイクコースで周回不足によるDSQ(失格)が数名いました。バイクのセッティング前にサイクルコンピューターがしっかりと動作するかを確認し、1周回した際にサイクルコンピューターの距離を確認しておくことで仮に距離表示に誤差があっても周回数を間違えることはなくなると思います。

◇時間に余裕を持った行動を

大会でのタイム計測や記録の正当性の保証はアンクルバンドを装着して競技してもらうことで行われます。例年着け忘れでDSQになる選手がいますが残念ながら今回も複数名の選手がアンクルバンドを装着せずに競技をしてDSQとなりました。配布場所(スタート地点)や時間(15分前から)を事前に確認しておくことはもちろんですが、余裕を持ってスタート地点に行くことで周りの選手の動向を見て装着し忘れのリスクは減りますし、忘れ物をしても取りに戻れる余裕ができます。スタートに遅れるとDNS(未出走)やペナルティーの対象になるので気をつけましょう。

以上、大会を通して気づいた点を述べましたが、いずれも対策をすれば防げることで参考にしていただくと幸いです。秋にトライアスロンシーズンが終わると春まで目標がなくなってしまうことがありますが、そういうときは冬でもできるデュアスロンを、ぜひ楽しんでください。

